

「花まつり」を迎えて

「花まつり」は、仏教をお開きになられた釈尊のご誕生をお祝いする行事です。

はるかヒマラヤの銀嶺をのぞむ高原に、釈迦族と呼ばれる気品と勇気をそなえた種族が、カピラ城を中心に小さな国をつくっていました。城主はスドーダナ（浄飯王）といい、その妃マーヤー（摩耶夫人）は、出産のために里帰りの途上にありました。春のおそい北インドではありますが、途中にあるルンビニーの花園は、美しい花が咲きみだれていました。

ときにおよそ今から2500年の昔、4月8日のことです。マーヤー夫人の一行が、ルンビニーの花園で休息をとられたとき、すばらしい王子が誕生されたのです。王子の誕生によって、一行は急いで王宮に引きかえし、父王は王子に「シッタッタ」太子と命名されました。經典の伝えるところによれば、シッタッタ太子は生れるとすぐ七歩あゆみ、右手で高く天を指し、左手で地をおおい、「天にも地にもわれ一人尊し」(天上天下唯我独尊)と高らかに叫ばれたといひます。

釈尊のご誕生は、仏教の誕生であり、日本仏教の誕生であり、本校旭川龍谷高校の誕生でもあります。それは、私たち1人ひとりの誕生を祝うことであり、今、人間として生きていることを再確認することでもあります。



灌仏 (かんぶつ)

經典の伝えるところによれば、釈尊のご誕生に天は感動して甘露の雨を降らしたといひます。これになぞらえて、誕生仏に甘茶をそそぎ、お祝いの心を表わす作法です。

